



表彰を受ける松井氏（右）

カーゴニュース 2026年6月16日 第5443号

C T T 松井氏の論文が消防庁長官表彰を受賞 指差呼称の定着によるミス防止がテーマ

2026/06/16 06:00



 お気に入り登録する

 この記事を印刷する

危険物・化学品

安全・BCP

消防庁が募集した「令和7年度危険物事故防止対策論文」において、セントラル・タンクターミナル（C T T、本社・東京都中央区、宮川靖嘉社長）の松井修安全推進部長の執筆した論文「指差呼称の定着によるオペレーションミス防止と運用改善」が消防庁長官表彰を受賞した。

危険物施設における事故発生件数は、近年高い水準で横ばいの状況が続いており、危険物関係団体・業界や消防関係行政機関では、事故の発生防止に積極的に取り組んでいる。こうした危険物の事故防止対策を推進するため、消防庁では2025年10月1日から26年1月31日にかけて「危険物事故防止対策論文」を募集。応募総数16編の中から、危険物を取り扱う現場で発生するヒューマンエラーの防止策についてまとめた松井氏の論文が、消防庁長官表彰受賞作品に選ばれた。

論文によると、C T Tでは大きな事故には至らないものの、確認不足に起因するオペレーションミスが散見されるようになった。事故やトラブルを分析した結果、作業直前に確認すべき重要なチェックポイントが見落とされていたり、作業者ごとに認識が微妙に異なっていたりすることが主な要因であることが分かった。

そこで、重要なチェックポイントを誰もが一目で認識できるよう、設備や作業箇所に視覚的なラベルやシールを掲示し、必ず指差呼称によって確認する仕組みを構築。論文は、その考え方や運用方法、教育制度を含めた定着の仕組みについて論じた。「単に

『注意する』のではなく、人の記憶や経験に頼り過ぎない仕組みづくりによって、安全性を高めることを目指した」（松井氏）という。

8日に開かれた危険物安全大会で表彰式が行われた。受賞にあたり松井氏は、「この取り組みが実際の現場で成果を上げていることに大きな意義を感じている。当社では論文で提案した対策を全社的に着実に進めており、オペレーションミス的大幅な削減につながっている。これは現場の従業員一人ひとりが安全を最優先に考え、日々愚直に取り組んできた成果」と強調。

さらに、「危険物を取り扱う業界において、安全活動に終わりはない。今後は自社内での取り組みにとどまらず、（C T Tの宮川社長が会長を務める）日本タンクターミナル協会（J T T A）とも連携しながら、業界全体でオペレーションミス防止の取り組みを推進し、安全レベルのさらなる向上に貢献していきたいと考えていきたい。今後も『安全はすべてに優先する』という考えのもと、事故ゼロを目指して安全文化の醸成に取り組んでいく」とコメントしている。